

2026 年 秋 季 特 別 展

「百済寺と近江の仏教美術―百済寺秘仏公開によせて―」



百済寺 ・ 仁王門
(ひゃくさいじ・ におうもん)

MIHO MUSEUM (滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300 館長:熊倉功夫) は 2026 年 (令和 8 年) 9 月 26 日 (土) - 12 月 6 日 (日) までの期間、秋季特別展「百済寺と近江の仏教美術―百済寺秘仏公開によせて―」展を開催いたします。

滋賀県・湖東三山の一つで、聖徳太子創建と伝わる百済寺 (ひゃくさいじ)。宣教師フロイスが「Paraíso na Terra (地上の天国)」と称えるほど繁栄した一方で、織田信長の焼き討ちにより焼失した歴史を持つ、同寺に伝わる寺宝を紹介するとともに、本堂保存修理に伴い、秘仏である本尊・木造十一面観音立像を寺外初公開します。併せて、近江の文化財を展覧し、滋賀県の仏教美術についてひろく紹介します。

また、北館では、寛永行幸 400 年を記念して、MIHO MUSEUM コレクションによる企画展示「花ひらく寛永の美」を同時開催いたします。茶の湯や華道、書をはじめ、多彩な文化が花開いた寛永時代。豊かな美意識に彩られた世界をお楽しみください。

開催概要

◆ 開催主旨：

百済寺（ひゃくさいじ）は滋賀県東近江市にあり、滋賀県と三重県にまたがる鈴鹿山脈の西麓に位置しています。聖徳太子が靈験を得て創建したと伝え、眼前にはかつて蒲生野（がもうの）と呼ばれた広大な平野と、その奥に琵琶湖を見下ろしています。そもそも百済寺の建つ愛知郡東部は、依智秦氏（えちはたし）を中心とする渡来系氏族によって開発された土地で、7-8世紀に彼らによって創建され、のちに天台勢力によって寺勢を拡大していったと考えられています。創建年代については議論もありましたが、厳重な秘仏として祀られている本尊・木造十一面観音立像の調査によって、像は確実に8世紀後半までに造像されたことが明らかとなりました。こうして、今に法灯を伝える古代近江の寺院と尊像の存在が確認されたのです。中世を迎えるころには有力な天台寺院として多くの子院を従え、地域の拠点寺院へと発展していきました。桃山期には織田信長の祈願所ともなり、ポルトガル人宣教師ルイス・フロイスはその壮麗な姿を「Paraíso na Terra（地上の天国）」と称しています。しかし、幾度も火災や戦乱に見舞われ、天正年間には信長によって一山が焦土となりました。重要文化財に指定される現本堂は、慶安3年（1650）に復興されたもので、百済寺の歴史は火災と復興を重ねた歩みとも言えましょう。

本展覧会では、百済寺の秘仏・木造十一面観音立像をはじめとする貴重な寺宝と、それに関わる近江の古美術・文化財を併せて展観し、滋賀県の仏教美術についてひろくご紹介いたします。

開 催 概 要

- ◆ 展覧会名：
2026 年秋季特別展「百済寺と近江の仏教美術―百済寺秘仏公開によせて―」
- ◆ 英語タイトル：Autumn Special Exhibition
Hyakusaiji Temple and the Buddhist Art of Ōmi
- ◆ 会 期：2026 年 9 月 26 日（土）～ 12 月 6 日（日）
- ◆ 会 場：MIHO MUSEUM
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300
TEL.0748-82-3411 URL: <https://www.miho.jp>
- ◆ 開館時間：午前 10 時～午後 5 時 【入館は午後 4 時まで】
- ◆ 休 館 日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
- ◆ 入 館 料：一般 1300 円、高・大生 1000 円、中学生以下 無料
【20 名以上の団体は各 200 円割引】
- ◆ 交 通：J R 琵琶湖線「石山駅」より帝産バス MIHO MUSEUM 行 50 分、
お車で新名神「信楽 IC」より約 15 分
- ◆ 主 催：MIHO MUSEUM、京都新聞
- ◆ 後 援：滋賀県、滋賀県教育委員会、NHK 大津放送局、BBC びわ湖放送、
エフエム京都、帝産湖南交通
- ◆ 担当学芸員：高梨 純次（MIHO MUSEUM 理事）
辻上 祐貴（MIHO MUSEUM 学芸員）
- ◆ 展示総数：全 93 件（うち重文 16 件、県指定 7 件、市指定 17 件、町指定 2 件）
※ 会期中、一部展示替えがあります。
- ◆ 展示構成：第 1 章 蒲生野周辺の古代寺院
第 2 章 古代近江の金銅仏
第 3 章 開山とご本尊
第 4 章 天台宗へのあゆみ
第 5 章 百済寺出土遺物
第 6 章 絵画に見る祈りと風雅
第 7 章 百済寺中・近世史料
コラム：百済寺樽
第 8 章 現・本堂
第 9 章 近江の木彫仏

◆ 講演会：「百済寺の仏像一本尊木造十一面観音像を中心に―」

日時：2026年10月25日（日） 13：30-15：00

講師：田中 健一 氏（京都大学・准教授）

◆ 討論会：「百済寺ものがたり―仏像・絵画・工芸品からみる百済寺」

日時：2026年11月8日（日） 13：30-15：30

講師：高梨 純次 氏（MIHO MUSEUM 理事）

國賀 由美子 氏（MIHO MUSEUM 参事）

桑原 康郎 氏（MIHO MUSEUM 学芸部長）

司会：辻上 祐貴（MIHO MUSEUM 学芸員）

定員：100名 参加費無料（入館料要）

場所：南館レクチャーホール

予約不要。当日美術館受付棟にて整理券配布。

展示構成と主な作品

キャプションの表記について

- ◆ 作品画像下に記載している表記のうち、作品名（ふりがなは不要）、作者名（ある場合）、時代、撮影者名（ある場合）、展示期間（ある場合）、所蔵者名と画像提供は必須です。

上記以外は、スペースが可能であればご掲載ください。

本リリースに掲載の画像データ提供について

- ◆ 作品画像をご希望の際は、
広報担当デスク（オズマピーアール：miho-prd@ozma.co.jp）にご連絡ください。

第1章 蒲生野周辺の古代寺院



雪野寺跡出土品・軒丸瓦

（ゆきのでらあとしゅつど・のきまるがわら）

白鳳時代 7-8 世紀

京都大学総合博物館蔵



雪野寺跡出土品・軒平瓦

（ゆきのでらあとしゅつど・のきひらがわら）

白鳳時代 7-8 世紀

京都大学総合博物館蔵

第2章 古代近江の金銅仏



金銅誕生釈迦仏立像

（こんどうたんじょうしゃかぶつりゅうざう）

重要文化財

奈良時代 8 世紀

善水寺蔵



金銅弥勒半跏像

（こんどうみろくはんかざう）

東近江市指定文化財

奈良時代 8 世紀

百済寺蔵

第3章 開山とご本尊



木造十一面観音立像

(もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう)

重要文化財

奈良時代 8世紀

百済寺

第4章 天台宗へのあゆみ



金銅唐草文磬

(こんどうからくさもんけい)

重要文化財

平安時代 12世紀

百済寺蔵



金銅蓮華唐草文透彫華鬘

(こんどうれんげからくさもんすかしぼりけまん)

重要文化財

鎌倉時代 13世紀

金剛輪寺蔵

第5章 百済寺出土遺物



信楽焼桧垣文壺
(しがらきやきひがきもんつぼ)
東近江市指定文化財
室町時代 15世紀
百済寺蔵

第6章 絵画に見る祈りと風雅

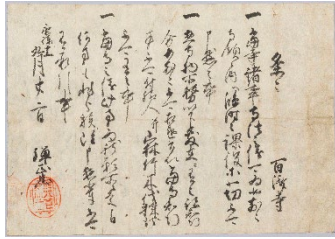


絹本著色黄不動尊像
(けんぽんちょしょくきふどうそんぞう)
滋賀県指定文化財
南北朝時代 14世紀
百済寺
※会期中展示替えあり



聖徳太子六随臣像
(しょうとくたいしろくずいしんぞう)
江戸時代 17世紀
百済寺
※会期中展示替えあり

第7章 百済寺中・近世史料

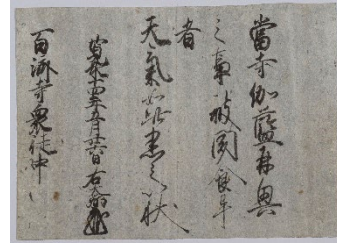


織田信長朱印状
(おだのぶながしゅいんじょう)

安土桃山時代 16世紀

百済寺蔵

※全期展示



明正天皇綸旨
(めいせいてんのうりんじ)

江戸時代 17世紀

百済寺蔵

※会期中展示替えあり

第8章 現・本堂



木造聖観音坐像
(もくぞうしょうかんのんざう)

東近江市指定文化財

室町時代 明応7年(1498年)

百済寺蔵

第9章 近江の木彫仏



十一面観音菩薩立像
(じゅういちめんかんのんぼさつりゅうざう)

平安時代 12世紀

MIHO MUSEUM 蔵

同時開催

秋季北館 企画展示
MIHO MUSEUM コレクション

花ひらく寛永の美

寛永3年（1626）9月、徳川秀忠・家光の招きにより後水尾天皇は京都・二条城に行幸しました。將軍の前驅に導かれ、天皇を中心とする壮麗な行列が御所から二条城へと進み、京の町はかつてないほどの華やぎに包まれました。この「寛永行幸」は、武家政権の安定を広く示すとともに、朝廷と幕府の関係性を視覚的に表現した一大政治儀礼であり、歴史的にも重要な出来事でした。

また、この行幸は寛永年間（1624～44）を中心に京都で展開した諸芸の隆盛を促す契機ともなりました。後水尾天皇は古典文学の復興をはじめ、雅な宮廷文化の再興に大きな役割を果たし、そのもとで、公家文化を基盤としながらも、武家や町衆らとの身分の枠を超えた交流（文化サロン）が活発となります。こうした動きのなかで、新たな美意識が育まれ、茶の湯や華、書など多様な芸術が花開いていきました。

本企画では、後水尾天皇や東福門院をはじめ、小堀遠州、千宗旦、野々村仁清、狩野探幽、松花堂昭乗など、寛永文化を代表する人々の交流と美意識を、当館所蔵作品を通してご紹介します。前期には「祭礼図屏風」を中心に寛永行幸に関わる作品を、後期には茶の湯に関する作品を厳選して展示いたします。それぞれの創造が響き合いながら形づくられた、寛永という時代ならではの豊かな美の世界をお楽しみいただければ幸いです。

- ◆ 会期：2026年9月26日（土）～12月6日（日）
- ◆ 会場：MIHO MUSEUM 北館
- ◆ 展示総数：26件（予定）前期・後期共に約10件の展示
- ◆ 展示構成：前期：9/26（土）～11/1（日） 寛永行幸－雅のはじまり
後期：11/3（火）～12/6（日） ひらかれた美意識－寛永の茶

展示予定作品：



祭礼図屏風 江戸時代



白釉円孔透鉢 野々村仁清作
江戸時代



押絵歌仙像 東福門院和子作
江戸時代



後水尾天皇宸翰消息
江戸時代



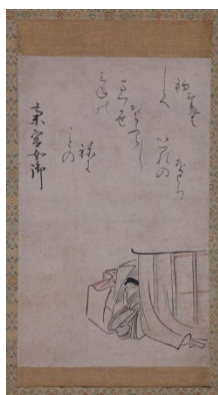
梅図画賛 小堀遠州筆
桃山～江戸時代



茶杓 銘 修学院 千宗旦作
江戸時代



鉄爛鍋 狩野探幽下絵
江戸時代



斎宮女御像
松花堂照乗筆
江戸時代



赤楽茶碗 本阿弥光悦作
江戸時代

レストラン・カフェについて

農薬や肥料を一切使用しない秀明自然農法で育てた素材を主に使用しております。
素材の美味しさを是非ご賞味ください。すべて自家製によるメニューでご来場の皆様
をお待ちしております。

※メニューについては、追加や変更になる場合がございますので、公式 HP をご確認ください。

レセプション棟 レストラン Peach Valley 11:30～14:30（ラストオーダー）

<menu> おむすび膳 開館以来の看板メニュー

ご好評の「MIHO とうふ」も併せてお楽しみいただけます。



おむすび膳

美術館棟 カフェ Pine View 10:30～16:30（ラストオーダー）

自家製ケーキ・和菓子をはじめ、軽食をご用意しております。
松庭の景色をゆっくり眺めながら、非日常的なお時間をお過ごしいただく空
間となっております。

<menu> サラダセット

その他、季節に応じた洋菓子、和菓子をご用意しております。



サラダセット



クレームブリュレ

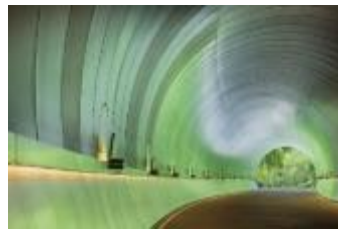
MIHO MUSEUM について

■ 自然・建築・美術品が調和した桃源郷

MIHO MUSEUM は 1997 年 11 月に琵琶湖の南、信楽の山中に誕生しました。建築設計は、パリ・ルーヴル美術館のガラスのピラミッドを設計したことで知られる I.M.ペイ。

枝垂れ桜のプロムナードを通り、銀色に輝くトンネルをくぐると、吊り橋の向こうに美術館棟が現れる設計は、中国詩に描かれた桃の花に導かれ洞窟を抜けた先に現れる楽園「桃源郷」をテーマにしています。

美術館棟は、建築容積の 80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。



美術館棟へ続くトンネルは、枝垂れ桜の咲くころは桜色が映り込み、新緑の季節は緑色が反射して、季節ごとに楽しませてくれます。

■ コレクション・常設展示・特別展

所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて約 3,000 件からなります。

北館では、季節により国内外からの出陳を加えて、開館ごとにテーマ性を持った特別展を開催しています。

南館では、エジプト、西アジア、南アジア、中国・西域の 4 つのギャラリーで古代美術の名宝を展示し



エントランスホール

■ 報道関係のお問い合わせ先：

MIHO MUSEUM 学芸部 広報：西郡 哲也、木曾 啓一郎

TEL. 0748-82-3452 (直) FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300

広報担当デスク：(株)オズマピーアール関西支社 担当：福村、川端

TEL.06-6205-9800 FAX.06-6205-9801 e-mail: miho-prd@ozma.co.jp

〒541-0046 大阪市中央区平野町 2-4-9 淀屋橋 PREX10F

■ 一般の方のお問い合わせ先： MIHO MUSEUM (ミホ・ミュージアム)

TEL.0748-82-3411 FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

<https://www.miho.jp> 〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300